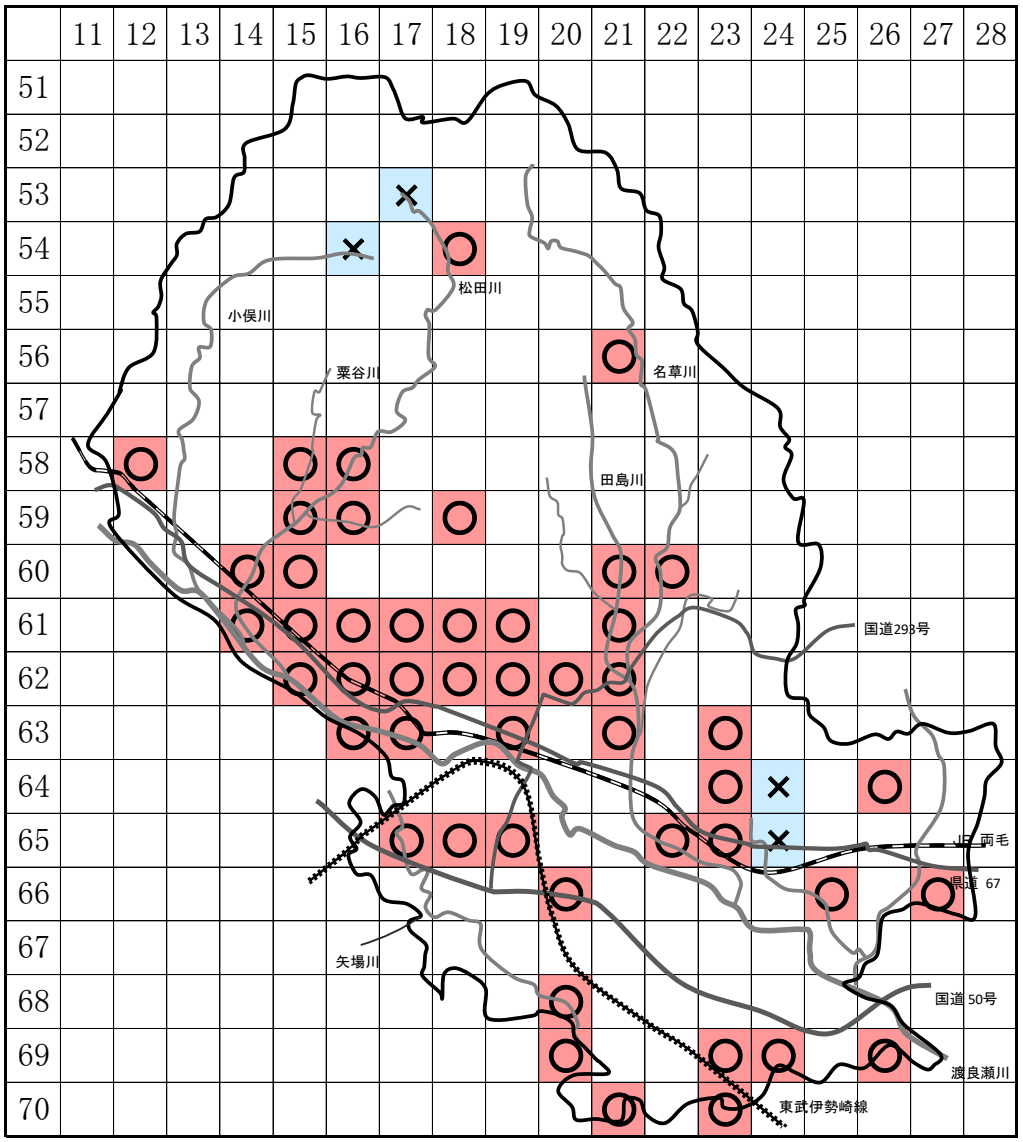
アゲハ

ナミアゲハ

確認数：	48	メッシュ
報告数：	52	メッシュ

2019年度 59/61　2018年度 59/65

※過年度　確認数/報告数



ナミアゲハとも言われているアゲハで、春型と夏型がある。春型は小さく夏型は大きい。幼虫はサンショウ・カラタチ・ミカンなどの木で成長する。このチョウによく形が似ているものにキアゲハがいるが、これは濃い黄色をしている。どちらもごくふつうに見られるチョウである。

観察適期

3月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調査結果

昨年（令和元年）よりも約10メッシュ少ない報告となりました。少ない原因として６、７月の降雨と低温、８月の高温と少雨といった気象条件が影響している可能性があります。確認された場所はこれまで同様多く市内各地で確認されました。

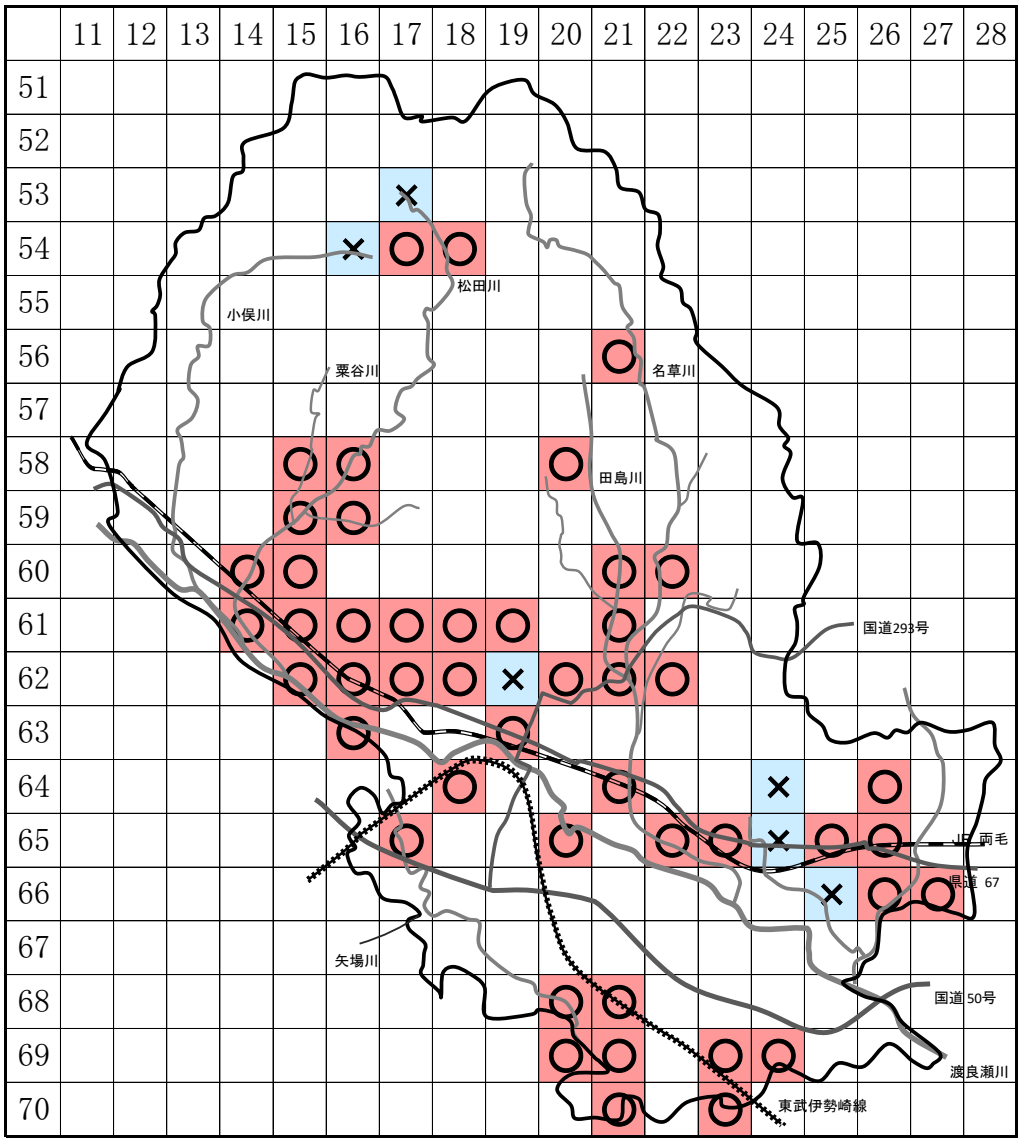
山間部では植物遷移の初期段階（先駆植物）に出現する主要な食草の一つであるカラスザンショウと好んで蜜を吸いに訪れるクサギが市内山間部を中心に多く見られることもあり、毎年安定した個体数を維持しているようです。

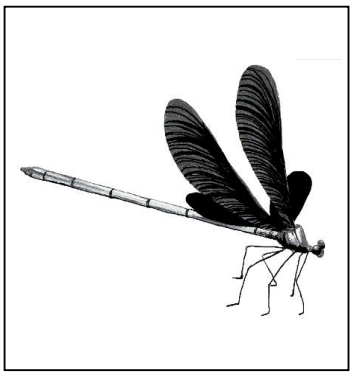
ハグロトンボ

確認数：	47	メッシュ
報告数：	53	メッシュ

新規

※過年度　確認数/報告数





大きさは約5.4～6.8cm。細長く黒っぽい翅を持ったヒラヒラと飛ぶトンボ。多くは河川に近い場所に生息しており、川の近くにある草原や林などでもみることができる。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

初めての調査対象昆虫となりました。足利市では広い範囲に生息していることがわかりました。特に河南地域にもいることがわかりました。おもに河川の下流域に住み、やや汚染された水域にもいるようですが、東京都や神奈川県では絶滅危惧種となっています。

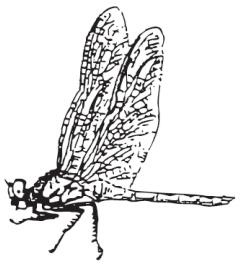
黒いとんぼで動作が緩慢で見つけやすく、水質の変化にも敏感に反応することから環境指標として適した昆虫であると言えます。

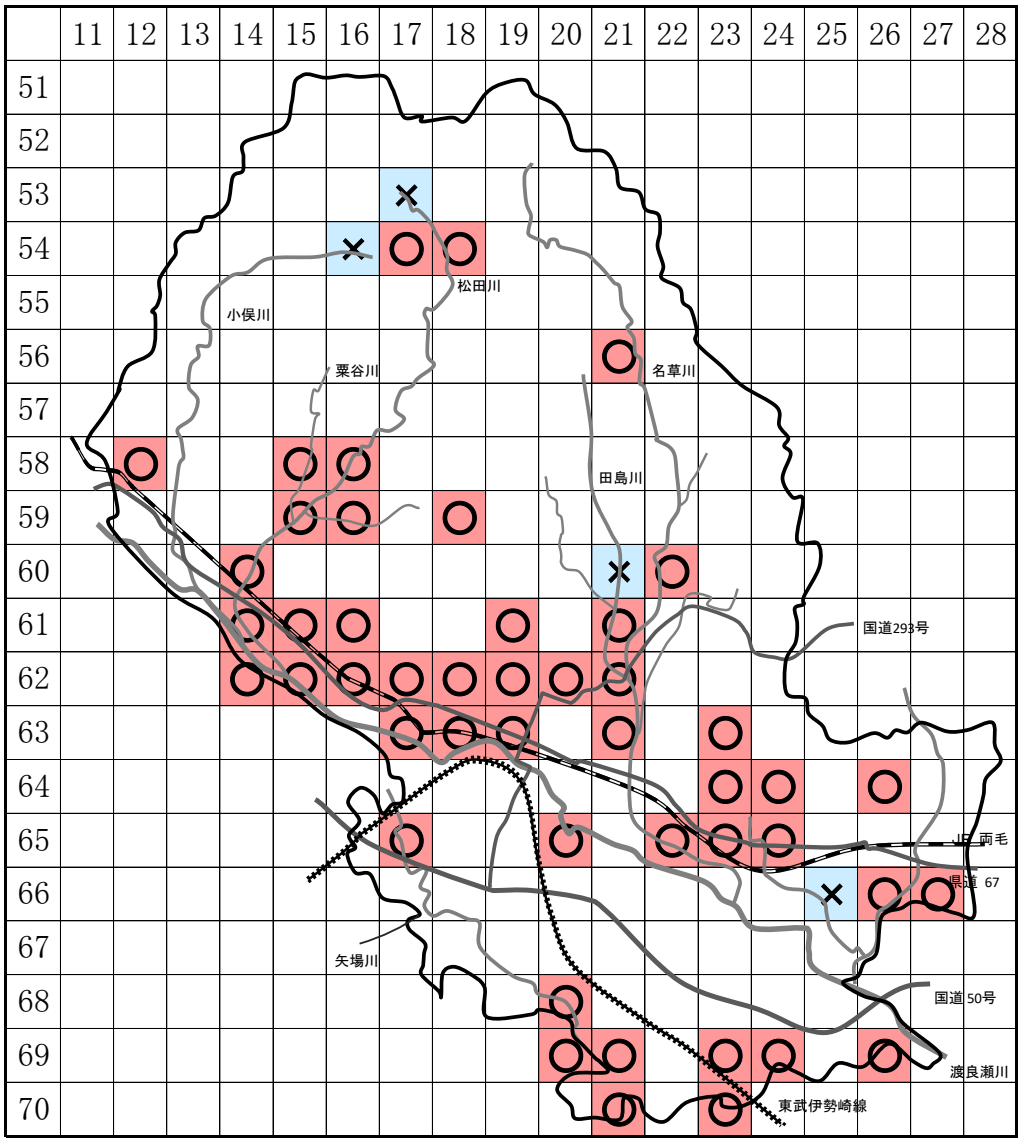
アキアカネ

確認数：	47	メッシュ
報告数：	51	メッシュ

2019年度 60/63　2018年度 53/61

※過年度　確認数/報告数





初夏に羽化した成虫は山へと移動し、秋に平地に降りてくる。移動をするトンボとしてよく知られる。何百匹のトンボが飛び交い、電線に止まっているアキアカネの行列を見たのはもはや過去のことになってしまった。

観察適期
7月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

昨年（令和元年）よりも約10メッシュ以上少ない報告となりました。少ない原因として気象条件が影響している可能性があります。特に８月の少雨で発生源となっている水たまりが干上がった場所もあったのではないかと思います。

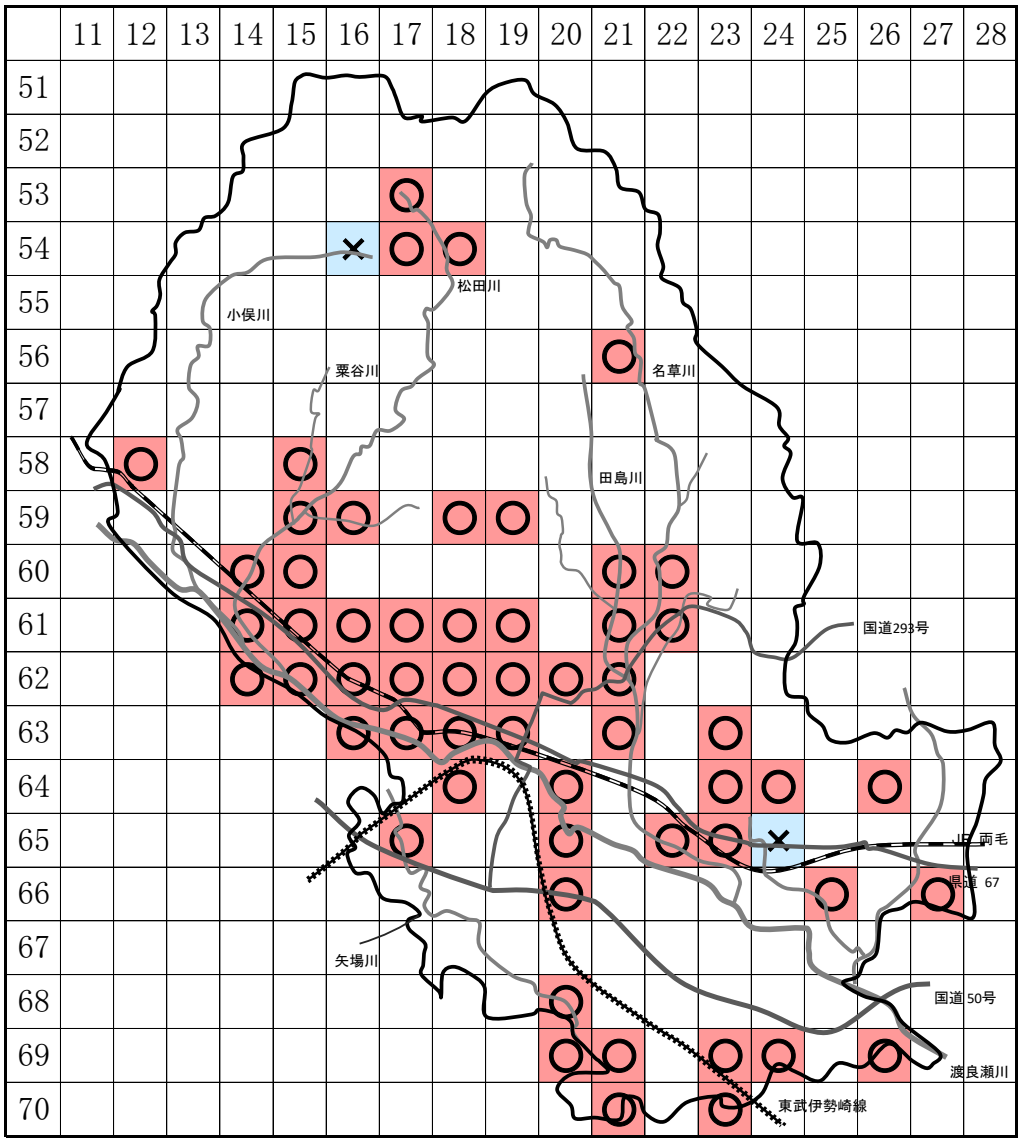
これまで同様市内各地で確認されましたが様々な理由により確実に減少していることは間違いありません。数種のアカトンボが足利市にもいますが最も多いのがアキアカネです。

アブラゼミ

確認数：56 メッシュ
報告数：58 メッシュ

2019年度 62/64　2018年度 59/62

※過年度　確認数/報告数



セミの中では、最もふつうの種類である。体の色は黒く、羽は茶色であり、腹には白い粉のようなものがついている。

7月から8月にかけて多く発生し、ギーギーと大きな音を出す。ヌケガラというと、このセミのものを見かけることが多い。

観察適期
7月～8月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調査結果

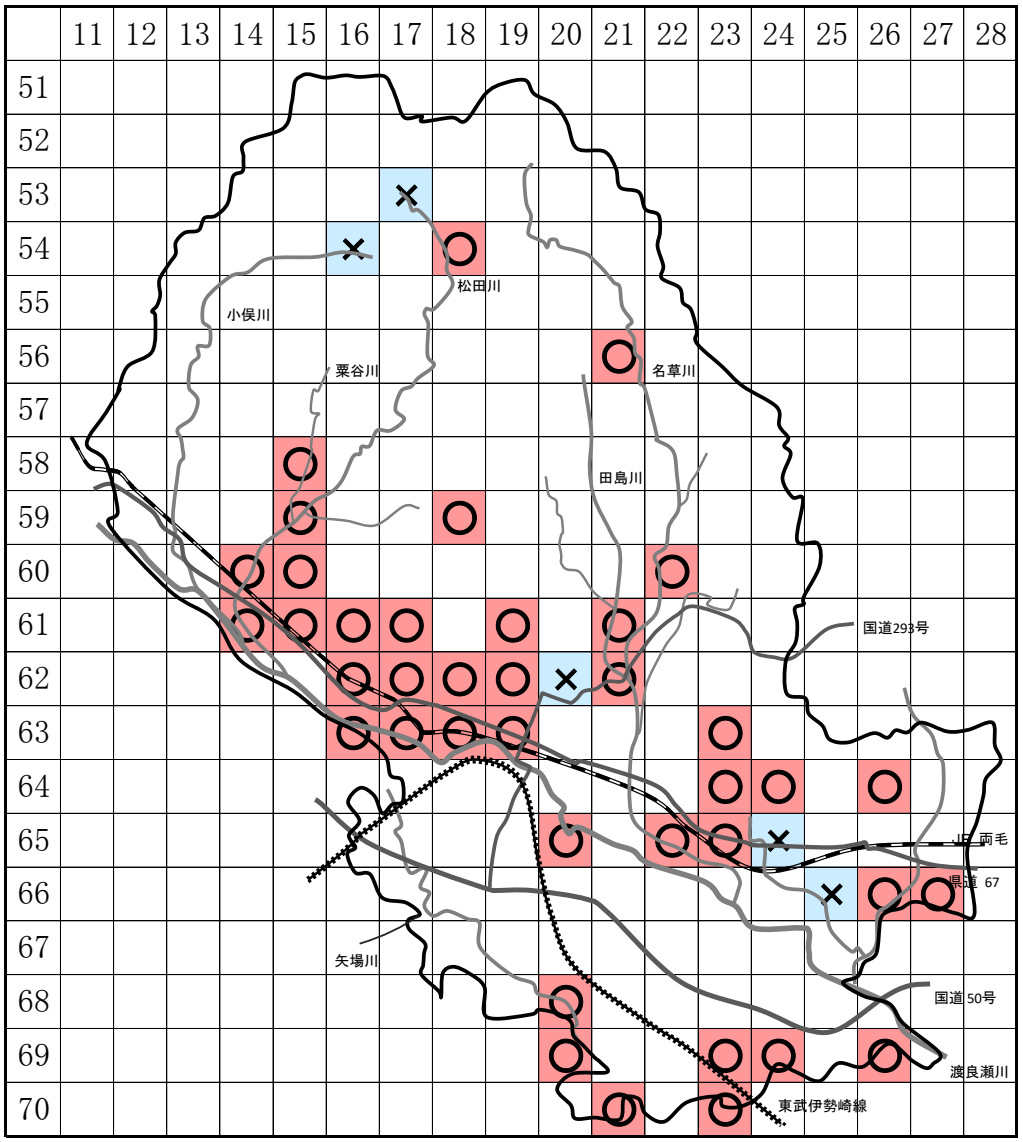
昨年（令和元年）とほぼ同じメッシュ数で確認されました。これまで同様市内各地で確認されました。足利市では最も数が多いセミと思われ、発生場所も広い範囲にわたっています。足利市においては大きな変化は認められないようですが、地域によっては減少しているところもあるようです。その原因としてヒートアイランド現象、土壌の湿気などが考えられており、今後の推移を知る意味でも継続した調査はたいへん重要です。

ヒ　グ　ラ　シ

確　認　数　：　39　メッシュ
報　告　数　：　44　メッシュ

新規

※過年度　確認数/報告数



褐色地に黒色と緑色の斑紋があるセミ。山地の薄暗い林に多いが、住宅地の公園にもいる。

おもに夕方と早朝に「カナカナカナカナ・・・」と哀調のある声で鳴く。夜間には灯火にも飛んでくる。

観察適期
6月～9月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

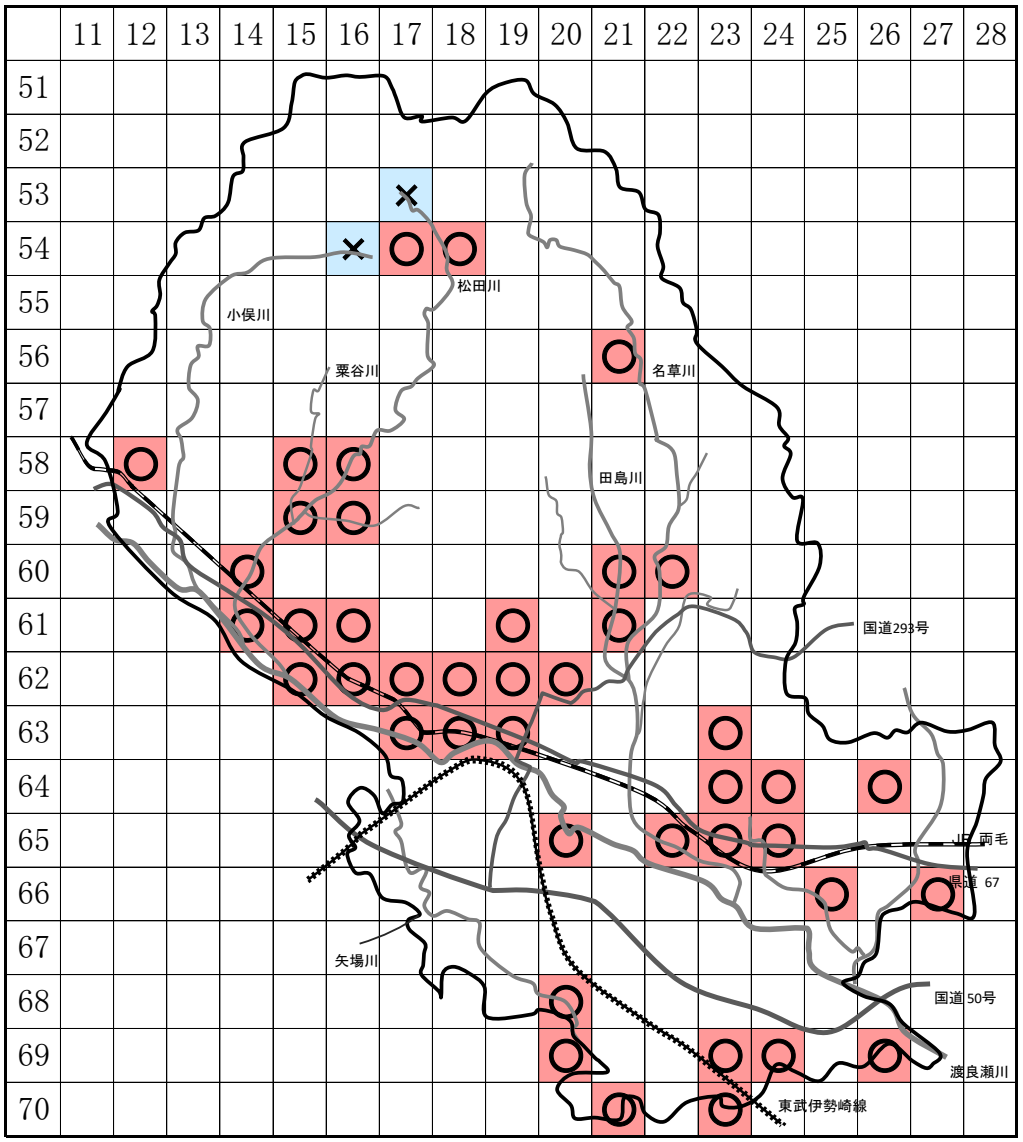
調　査　結　果

初めての調査対象昆虫となりましたが、足利市の広い範囲に生息していることがわかりました。河南地域でも結構生息していることがわかりました。同じセミの仲間であるアブラゼミと比べ確認メッシュ数は少ないですが、これは広葉樹やスギなどの薄暗い林内に生息し市街地にはいないことが原因と思われます。西日本ではおもに山地にいるようです。

オオカマキリ

確認数：	42 メッシュ
報告数：	44 メッシュ
2019年度 41/52	2018年度 46/56

※過年度　確認数/報告数



体長は8cmほどあり、カマキリの中で一番大きい。色は緑色で、カマのような前足で生きている虫をとらえて食べる。

【見分け方】

	オオカマキリ	チョウセンカマキリ
たまご（卵塊）	丸みがある	細長い
うしろ翅	黒い部分が多い	透明
カマの付け根	黄色	朱色

観察適期　8月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

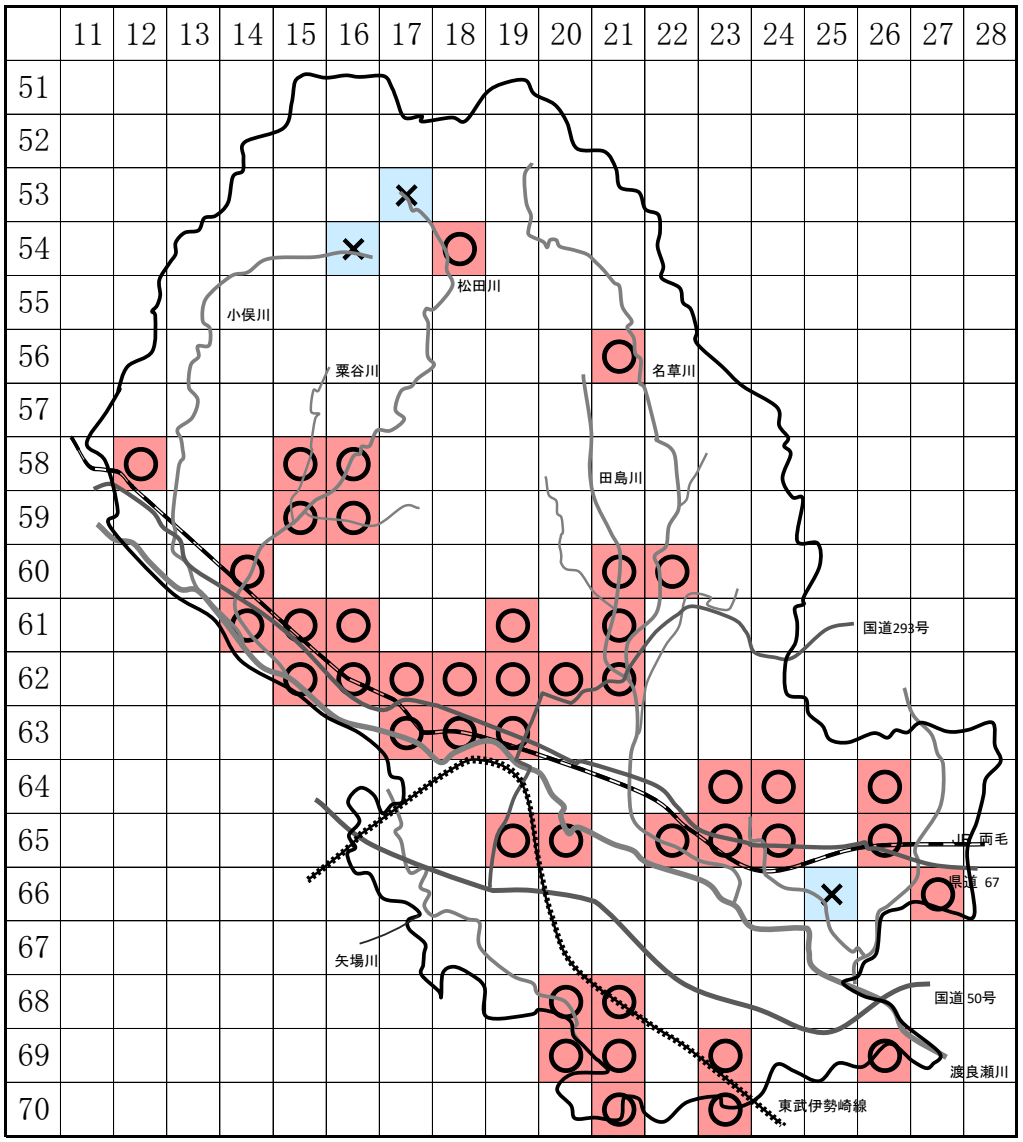
調　査　結　果

昨年（令和元年）とほぼ同じメッシュ数で確認されました。市内各地に広く生息していることが確認されました。確認数が徐々に減っている傾向であることから数は減っているものと思われます。大きなカマキリは「オオカマキリ」と「チョウセンカマキリ」の２種いて慣れないと区別は難しいのですが、区別点がわかれば意外と簡単に見分けられます。足利市で見られるのはオオカマキリがほとんどです。

エンマコオロギ

確認数：	43 メッシュ
報告数：	46 メッシュ
2019年度 44/56	2018年度 43/56

※過年度　確認数/報告数



からだは茶褐色で2～3cmの大きさである。4月ごろ出て数回脱皮をくりかえして8月ごろ成虫になる。

ほかにミツカドコオロギ・オカメコオロギなどがいる。

観察適期
8月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

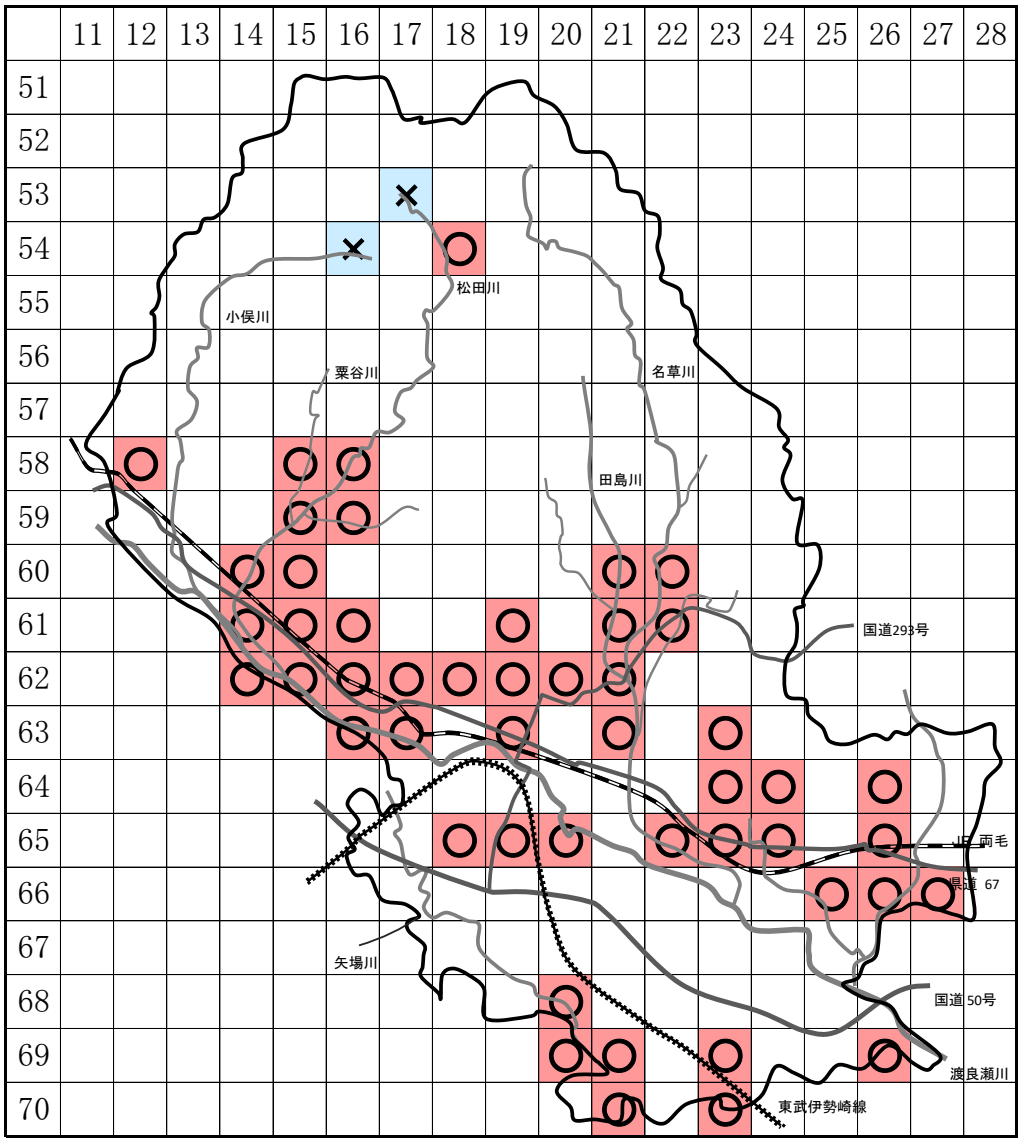
昨年（令和元年）とほぼ同じメッシュ数で確認されました。市内各地に広く生息していることが確認されました。原っぱや畑、道ばたなどに広く生息し足利市では最も普通に見られるコオロギの一つです。鳴き声は「コロコロリー・・・」とも「キリリリー・・・」、「ヒヒヒヒヨヒヨヒヨ・・・・」とも聞こえます。安定した個体数を維持しているものと思われます。

ナナホシテントウ

確認数：	49	メッシュ
報告数：	51	メッシュ

2019年度 54/60　2018年度 59/63

※過年度 確認数/報告数



大きさは1cmぐらいで、赤い色の中に7つの斑紋がある。

幼虫・成虫は、アブラムシを食べる。

ほかにナミテントウ・アカボシテントウなど多くの種類がある。

観察適期

4月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調査結果

昨年（令和元年）とほぼ同じメッシュ数で確認されました。日当たりの良い草地、畑地の周辺、庭などいろいろなところでよく見られます。年に２回発生して成虫で冬を越し、夏には夏眠をします。初冬でも暖かい日はよく見ることができます。毎年安定した個体数を維持しているものと思われます。